



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 平成29年07月03日 第826号「週刊五十嵐レポート」

他山の石とする

昨年に引き続き、東京商工会議所江戸川支部主催、個人タクシーの団体向け「経営戦略」セミナーを開催。

東京におかれているタクシー業界は、実は良い環境下にある。東京には人口流入しており、特に都心の港区、千代田区、中央区は2040年まで人口が増加すると予想されている。また、都内訪日客は年間1200万人、訪都国内旅行者数は5億1600万人に達し(2015年度)、現在は更に増加している。東京には人で溢れている。

タクシーを利用して、必ず聞くのは、「今の景気はどう?」。タクシードライバーは異口同音に「良くないね」と答える。「それではいつ景気が良かったの?」と聞くと、「バブル時」とベテランドライバーは答える。(いつの時代だよ)

初乗り730円から410円に変わった。ドライバーの反応は2つに分かれる。1つは、乗る人が多くなり、売上が増えたと喜ぶドライバー。初乗りで降りる人は多くないという。今回の価格改定は、遠くへ乗ると改訂前より高くなる。実質値上げ。一方、乗る人は以前と変わらず、売上は減ったと嘆くドライバー。

法人タクシーと個人タクシーの大きな違いは、法人タクシーは昼間から深夜まで活動しており、個人タクシーは主に夜・深夜に活動しており、昼間の活動は少ない。夜のほうが遠くまで乗る確率の高い客が多いから。しかし、夜にタクシーを乗る人が少なくなった。夜遅くまで飲む人が少なくなったのと官公庁の残業も少なくなった。取り巻く環境は構造的に変わってきた。それを一言「景気が良くない」と片付ける。(思考停止状態)

個人タクシーでも夜型から昼型に変わった人もいる。環境の変化に対応した人。多くの個人タクシーは変わらない。変わろうとしない。法人タクシーは、黒船(ライドシェア)、配車アプリなど環境の変化に対応しようと必死である。サービス向上にも余念がない。ますます法人と個人の差が開く一方。なかには個人タクシーを避けて法人タクシーに乗る人も多くなってきた。シャッター通りの商店街を連想してしまう。

適者生存。他山の石とする。(自分にとって参考になり役立つ、自分とは関係のないところで起こった事柄のたとえ)

ちょっと
気になる出来事

AKB48グループなどの芸能人のTシャツの製作を請け負っているA社。AKBの総選挙の順位とは別にTシャツの受注数と違いがあるかどうか、聞いてみた。

トップグループは、松井珠理奈(3位)、指原莉乃(1位)、渡辺麻友(2位)、宮脇咲良(4位)の4名。これは総選挙のベスト4、Tシャツの受注高順位も同じ。

第2グループは、荻野由佳(5位)、向井地美音(17位)倉野尾成美(30位)。第2グループになると、総選挙の順位とは違った。

第2グループ以下は、総選挙の順位とTシャツの売れ具合は別ということがわかった。「だからどうした」と言われそう。

話を聞くと、AKB全体のTシャツの受注高が毎年減少しているとのこと。AKBにもライフサイクルがある。



一口メモ
知識

定義は必ず陳腐化する

事業の定義のなかには、長く行き続ける強力なものもある。だが、人間がつくるものに永遠のものはない。特に今日では、永続しうるものさえほとんどない。事業の定義も、やがて陳腐化し、実効性を失う。

事業の定義が陳腐化したときの最初の対応は、防衛的である。現実を直視せず、何事も起こっていないかのように振る舞う。次によく見られるのは、小手先の対応である。

事業の定義が陳腐化の兆候を示し始めたときには、それまでの成長の基盤となってきた前提が古くなってしまったことを認識し、自らの環境、使命、強みを現実と照らし合わせてみなければならない。

予防策を講じなければならない。2つしかない。第1の予防策は、体系的廃棄。3年おきに、すべての製品、サービス、流通チャネル、方針を根本的に見直すことである。第2の予防策は、外で起こっていること、特に顧客でない人たち(ノンカスタマー)について知ることである。

P.F.ドラッカー「チェンジ・リーダーの条件」より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日 午前10時~12時
- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週水曜日 午前10時~12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

(株)五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

Tel03-3659-7703 Fax03-3659-7077 i-daruma@igarashireport.com

